

Wesley Hall News



2007年度 初等部卒業式

青山学院スクール・モットー

地の塩、世の光

The Salt of the Earth, The Light of the World

(新約聖書 マタイによる福音書 第5章13～16節より)

No.99

2009.3.2.

特集 卒業

説教“私たちの歩む道を備え、整えてくださる神”…………… 高砂民宣… 2

●卒業生からのメッセージ

幼稚園	筒井比呂美／多々内三恵子…	4
初等部	谷 純太／石松 穂波…	5
中等部	疋田 好子／篠田 和也…	4
高等部	梅澤 冬紀／牧野 礼奈…	6
女子短期大学	中村 友希／安岡 円香…	7
大学	堀川 樹／奥村 隆平…	6

●出発にあたって—先生方からのすいせん図書— …………… 8

●退職にあたって …………… 伊藤 勝啓… 10

●ACUCA スチューデント・プログラム報告…………… 山下 亮… 11

●青山学院資料センター所蔵のキリスト教貴重文献・史料 その26… 氣賀 健生… 12

●私の教会 日本基督教団 安行教会 …………… 田中かおる… 14

●宗教センターだより …………… 15

説教

“私たちの歩む道を備え、整えてくださる神”

箴言 第16章9節



高砂民宣

大学宗教主任

「人間の心は自分の道を計画する。
主が一步一步を備えてくださる。」

(箴言 第16章9節)

数年前から中国では、幼い子どもたちに『論語』を教える儒教の教室が大人気であるそうです。このブームは子どもたちの間だけでなく、ビジネスマンの間にも広がっていると聞きます。昨年の夏に開催された北京オリンピックに象徴されるように、現在の中国は急速に経済が発展し、国際化が進んでいます。価値観も変わりつつあり、人々は自分たち中国人とは一体どのような存在であるのかという、自己意識を求めています。そうした中で、儒教が伝統的な道徳観として復権し、ブームとなっているようです。

1月20日にアメリカで行なわれたオバマ氏の大統領就任式の際には、かつてリンカーン元大統領が就任式で用いた聖書に手を置き、宣誓がなされ、世界中に報道されました。初の黒人(アフリカ系アメリカ人)大統領が誕生し、その就任式で用いられた聖書が、あの奴隷解放宣言をしたリンカーン元大統領が用いたのと同じ聖書であったことが話題となったのは勿論ですが、それだけではないように思われます。百年に一度と言われる大不況、そしてアメリカ全体の舵取りを大きく変更しようとする中で、抛って立つ規範となるものが注目されたと言えるのではないのでしょうか。先述した論語と聖書を同時に取り上げて言及することには無理があるかもしれませんが、東西を問わず、急激に変化する現代社会の中で、人々は不変の基準を捜し求めているように思えます。

聖書の世界では「ヨブ記」や「箴言」、「コヘレトの言葉」、そして「詩編」の一部などを“知恵文学”と呼びます。これらは広く中近東で言い伝えられていたものがイスラエルの宮廷で取り上げられ、外国の文学と触れ合う中で、まとめ

られていったと考えられています。人間は人生の経験に基づく知恵を重んじます。「轍(てつ)を踏む」という諺は、昔の人と同じ失敗をすることです。そうした失敗を繰り返さないように、より賢く生きるために、人々は知恵を貴び、愛するのです。特に「箴言」の中には、様々な知恵の格言が収められています。イソップ童話の「蟻ときりぎりす」のヒントとなった格言(6:6～8)等、興味深いものが幾つもあります。

「箴言」は多くの箇所、正反対の二つものを比べることにより、生きる上での知恵や真理を明らかにして行くというスタイルをとっています。冒頭の1章7節にも、「主を畏れることは知恵の初め。無知な者は知恵をも諭しをも侮る」と記されています。ここには、神を畏れる敬虔な者と、知恵や教訓を軽んじる愚かな者とが比較されています。そして、どちらが正しい生き方であるかは明らかです。「無知の知」という言葉がありますが、私たち人間は、自分が無知であることを自覚することにより、初めて真理を探究するようになります。それと同様に人間は、自分が造られた被造物であることを自覚することによって、真理や知恵を謙虚に追究し始めるのです。

箴言16章9節でも、二つのことが比較されています。口語訳聖書では、「人は心に自分の道を考え計る。しかし、その歩みを導く者は主である」と翻訳されています。私たちは自分の人生についていろいろと考えます。人生の設計、それはとても大切なことです。しかし私たち人間の考えることは賢く道理になっっているかのように思えますが、完全ではないということです。最終的には神が完全にしてくださるということです。

この箴言の言葉について思い巡らす時、「創世記」の37章から50章に記された「ヨセフ物語」を想起します。ヨセフの生涯、それは正に、波

乱万丈の一語に尽きます。彼は12人兄弟の11番目に生まれ、父親であるヤコブの寵愛を一身に受けていました。それはヨセフが、ヤコブにとって最愛の妻であるラケルとの間に年老いてから生まれた子であったからでした。父ヤコブはヨセフに「裾の長い晴れ着」を特別に作ってプレゼントし、彼は常にそれを着ていました。ヨセフはまた、腹違いの兄たちのことを父親に告げ口したり、何の躊躇もなく自分が見た夢を語るなど、いわゆるK. Y. (空気が読めない) 青年であったと言えるでしょう。そうした事がいろいろと重なり、兄たちは腹を立てます。ヨセフは兄たちの嫉妬心と陰謀によって隊商に売り飛ばされ、外国へと連れ去られてしまうのです。

ヨセフはエジプト人の手に渡り、度重なる苦難を味わうこととなります。しかし長い年月が経ち、ついにチャンスが到来します。事のきっかけは、王が見た夢でした。王はその夢が気になって仕方なく、国中から賢者を呼び集めて夢解きをさせます。しかし誰もその夢を解き明かすことが出来ません。そこでヨセフに白羽の矢が立つのです。ヨセフは、王が見た二つの夢は、同じことを示していると告げます。どちらの夢も7年間大豊作が続き、その後は同じく7年間、大飢饉が続くことを示している、というのです。そしてエジプト全土に倉を建て、豊作が続くうちに食糧を蓄えるよう、王に進言します。

ヨセフが夢を解き明かしたとおり、大豊作が続き、その後は大飢饉が起きました。ヨセフは王の絶大な信任を得て、エジプトの総理大臣にまで昇進します。その後、大飢饉がカナン地方までも襲い、なんとヨセフの兄弟たちが食糧を求めてエジプトへやって来ます。かつて自分を売り飛ばした、憎んでも憎み切れない兄たち。今や権力を欲しいままにするヨセフにとって、彼らに復讐することは容易なことでした。しかしヨセフは彼らを受け入れて和解するのです。彼はその時、次のように言いました。「命を救うために、神がわたしをあなたたちより先にお遣わしになったのです」(創世記45:5)。これは聖書全体の中で、最も素晴らしい信仰告白の一つであると言えるでしょう。ヨセフにとって、兄たちから妬まれ、エジプトに奴隷として売り飛ばされたことは、言い尽くすことの出来ない深い悲しみでした。しかしそれは、後にエジプトやその周辺一帯を襲う大飢饉から人々を守るため、神が予め計画された救いの業であったと、ヨセフ自身が気付かされ、告白していま

す。神はイスラエルの民を、後に起こる大飢饉から救うために、夢を解く能力を持つ青年ヨセフを先にエジプトへ派遣したのです。キリスト教では、これを「摂理」と呼びます。どのような事が起ころうとも、神は万事を益となるようにして下さる。しかも神はそれを、私たち人間の思いを遥かに越えた仕方でも実現して下さるという信仰です。長い人生の中で、私たちは試練や苦しみに遭うことがしばしばあります。そのような時に私たちは、「何故、自分がこのような試練に遭わねばならないのか」と呟くことでしょう。そうした疑問に対する答えは、しばらくの間は見出せないかもしれませんが。しかし後になって、「そうか、あの時の試練は、この時のためだったのか!」と気付く時が必ず来ると、聖書は告げています。このことを確信し、どのような時も力強く歩み続けて行きたいと願います。

私たちはまた、ヨセフ自身の成長を、この物語の中に読むことが出来ます。かつてのヨセフは傲慢な青年であったと言えるでしょう。考えてみれば、腹違いの兄たちが怒るのも理解できます。しかしヨセフは幾つもの試練を経験することにより、成長して行きます。そして後には、王の夢を解き明かすことによって大勢の人を救う者となるのです。人間は様々な試練を経験することによって、自分に与えられた賜物が磨かれ、開花させることが出来るようになると、聖書は告げています。

ヘブライ語のバーハルという言葉は、「選ぶ」と訳すことが出来ると共に、「試みる」と訳することも出来ます。つまり、選びと試練とは一つということです。純度の高い金属を精製するためには、高温でじっくりと焼きます。それと同様に、選ばれた者は時として試練を与えられ、それに耐えることによって、さらに優れた者へと成長するのです。卒業生の皆さんも、これからいろいろな試練に遭う時が来ることと思います。そのような時にこそ、聖書の言葉を思い出してください。神は独り子であるイエス・キリストをこの世に遣わされ、御子を十字架につけられました。それほどまでに、神は私たち人間を愛してくださっているのです。皆さん一人ひとりもこの愛に包まれていることを信じ受け入れ、「地の塩・世の光」として豊かなご活躍をされますよう、心からお祈り致します。



卒園を迎え

筒井比呂美
(卒園児保護者)

娘と共に通った幼稚園の三年間は、毎日が至福の時間でした。

年少の頃は、抱っこをして通園していた娘も、年中になると、物事に意欲的に取り組むようになったり、年少の方のお世話や先生のお手伝いをするに喜びを感じるようになりました。年長では、人のために祈ることを知り、どんどん世界が広がって

いきました。お友達と一緒に笑ったり泣いたりケンカしたりしながら、ゆるし合い、認め合い、励まし合い、感謝することを覚ええました。

いつの間にか、神様の御言葉を日々の生活の中で現し成長する子どもの姿に、私も共に学ばせていただきました。先生方と多くの方々のお導きとお支えによるものから感謝いたします。これからも、子ども達ひとりひとりに与えられた神様からの賜物を大切に、自信を持って歩んで欲しいと願っております。



卒園にあたり

多々内三恵子
(ゆり組担任)

今年度卒園していく年長児たちも3年間を通して、聖書に触れ、神様のお話をたくさん聞くことができました。その間子どもたちの神様の理解も育っていました。11月のある日、園庭で焼き芋をするために焚き火の用意をしていると、燃える大きな炎を見ながら、「先生、この前のお話のストーブのような火の中に入れられた人たちってこれと同じくらい?」と旧約ダニエル書(3章)

の箇所を覚えていた子どもが尋ねてきました。神様の業を身近な生活の中で感じているんだなと、うれしく思いました。子どもたちが体全体で、神様を理解していることが伝わってきます。

神様によって、この「青山学院」に集められた私たちです。「神様に愛されていること」、「私たちも神様を愛し、また隣人も好きでいること」、「祈ること」、幼稚園で知った神様のことを、今後出会っていく新しいお友達に、自分の言葉で伝えていくことができたら素晴らしいと思います。

これからの皆さんの未来が神様に守られ豊かに過ごされますようにお祈りしています。



私を見たので信じたのか

(ヨハネ20:29)

正田 好子
(教諭)

世の中には不思議なことがよく起こります。昨年のこと、着替えをした際 内のセーターの上に乗るでブローチのように何とゴキブリが2つ付いていたのです。どこから? いつ?!

先の中等部祭直前の連休中うちのクラスだけは登校を許可しませんでした。生徒は怒り心頭に発し、理由は?と迫りました。明確な答えも明かされず、生徒は今も釈然

としないようです??

さて、聖書の中にも不思議な話が数多くあります。上のような日常生活で起こったことは経験、研究、考察から納得できる結論が出るものです。聖書の話は日常起こりえないことが多く‘科学の眼’では了解し難かったり、諸説も所詮他人事の解釈で終わり、自分の心には響かないことが多くあります。どうも違う眼、想像、感動、同情というような‘心の眼’—‘見えないものを見る力’—が必要のようです。これからの人生の中で‘見えない中に大事なことがある’と知っている事、それは大きな力になることでしょう。幸多かれと祈ります。



初等部生活で 得た事

谷 純太
(6年桜組)

初等部を卒業するにあたって、初等部生活をふり返ると初等部でしかできない体験が多くあったと思います。毎日の礼拝、週に一回の祈とう会、各学年にある宿泊行事、一年生と六年生が仲良く遊ぶパートナーの制度、どれも初等部ならではの体験だと思います。特に宿泊行事は参加する一人一人が成長できる場だと思います。五年生で行

う長崎県平戸島での遠泳では、冷たく足も届かない美しい海で二キロを泳ぐ目標に向かって仲間と協力して泳ぎます。一人だったら泳げない海も仲間が居ると安心して泳げ、つかれて不安な気持ちで泳いでも仲間がはげましてくれるという事を体験し仲間の大切さ、仲間と協力する事を教えてくれる行事です。仲間と協力するという事は聖書にある隣人を愛するという事につながると思います。初等部で学んだ多くの事は卒業しても忘れる事はないと思います。



初等部の思い出

石松 穂波
(6年桃組)

私の初等部生活は、大雨の入学式から始まりました。そして雨の仲良しキャンプで、樋口部長先生から「信仰を盾としてとりなさい。」と聖書をいただきました。真新しかった聖書は、毎朝の礼拝や色々な学校行事で、お恵みの分だけ古くなった気がします。自分のこともきちんと出来ず、先生や上級生に助けていただきながら過ぎた低学年、やっ

と自分のことは自分で出来るようになった中学年、そして学校や下級生のために働く機会を与えていただいた高学年。やっぱり雨で出来なかった遠泳、フィリピンや止揚学園を訪問したこと。たくさんの神様のお恵みが、たくさんのかげがえのない思い出となりました。初等部で過ごした六年間、神様、先生方、両親、友人、全ての人に心から感謝いたします。神様からいただいたたま物を、人のために使う人になれるよう、中学部へ行っても神様とともに歩んでいきたいと思っています。



人との付き合い

篠田 和也
(3年D組)

僕は中等部から青山学院に入学しました。そして、多くの人達と関わりを持つ事が出来ました。心から親友だと言えるような人、用事がある時だけ話すという人…いろいろです。そんな人達と僕は、付き合いに差はあるにしても、関わりを持つ事で何かを得られた気がします。

かなか出来ないものです。相手の意見が自分には新しく、それを聞いた事で今まで以上に考え方が発展していきます。また、コミュニケーションをとる事で単に考えだけでなく心の面で成長していくと思います。会話等をする事で相手の心情を読み取ろうとし、それが思いやりにつながっていきます。中等部3年間だけでも多くの学友や先生方と関わりを持つ事が出来ました。そのおかげで、今僕が現状まで成長出来た部分はとても大きいです。ありがとうございます。今後は僕自身が相手にとって“関わった人”になり、その人を伸ばす存在になっていきたいです。



2つの“長”

梅澤 冬紀
(HR304)

私は高等部でオルガン部部长を2年間、文化委員長を1年間と2つの“長”を経験しました。2つの“長”を両立するのはとても容易とは言い難いものでした。もちろん途中で投げ出したくなったり無償の奉仕の意味を考えたりした時もありました。しかしそのような時にも副の“長”の方々、顧問の先生方、友人達の支援・協力がありました。皆のおかげで

無事任務を終了することができ、こうして今卒業式を目前に控えています。

私はこの2つの“長”という経験は決して無駄ではなかったように思えます。オルガン部での個々の努力、生徒会での個々の統率という両面を垣間見ることができたからです。もしかしたら高等部の社会・国会という2つの“会”を見ることができたということになるのかもしれませんが。

私は今、この貴重な体験をさせてくれた高等部、そして陰ながら協力して下さった方々、クラスの皆にありがとうと言いたい気持ちで一杯です。



高等部で得たもの

牧野 礼奈
(HR309)

長いと思っていた高等部での3年間も、もうすぐ終わろうとしています。この3年間はハンドベル部と図書委員会の仕事で非常に充実したものでした。辛かったこと、悩んだ事も沢山ありましたが、今はそれ以上に楽しかった出来事が思い出されます。

こんな素晴らしい高校生活を送れたのは、神様のお導きだと思います。苦しかった思い

出も、私の成長に必要な試練であり、神様がいつでも見守って下さっていたのだと思えるようになりました。そして、そのおかげで私は努力が無駄になる事はない、と学ぶ事ができました。今後も様々な悩み、迷いが生じるとは思いますが、諦めずに努力するという事はきっと私にとってプラスになるでしょう。

お世話になった先生方、図書委員会のメンバー、大切な友人たち、そしてかけがえのないハンドベル部の仲間に出会ってくれた高等部に感謝し、この場所で得たものを忘れることなく、これからも精進したいと思います。



青山学院大学での学び

堀川 樹
(経済学部経済学科4年)

「そればかりか、わたしの主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失とみています。」(フィリピの信徒への手紙3章8節)

私の青山学院大学での生活はこの御言葉に象徴される。キリスト者推薦生として入学し、学業はもちろん青山キリスト教学生会にてキリスト教活動をし、信仰の友が与えられ感謝であった。聖書を共に読み、分かち合い、

祈り合う中で主イエス・キリストを知る素晴らしさを味わい、主によって与えられた仲間を支えられ、励まされた。私たちは誰一人としてキリストの十字架による救いから漏れる人はいない。わたしのためにあなたのために死なれた方がいるということ、またその方によって生かされ、互いに手を取り合って歩む存在なのである。このことを深く知ることが青山学院での学びであると強く思う。青山学院での経験を糧としてますます主を知ることの喜びに満ち、主のためにこの体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げ、歩んでいきたい。



AMAZING GRACE

中村 友希
(英文学科2年)

大学に入学し、人生で初めての礼拝で、「求めなさい、そうすれば与えられる。」というみことばを聞き、充実した学生生活を送ろうと思ったのが、つい昨日のこのように思い出されます。

聖歌隊に入ったことをきっかけに、キリスト教とのかかわりを持ち、たくさんの出会いがありました。共に学び、共に祈り、歌を通

して神様を賛美することの素晴らしさを知り、多くの時間を共有した仲間は、私にとって、今もこれからも、かけがえのない存在です。礼拝や日々の生活の中で語りかけられる様々なことが、支えや励みとなりました。2年間の学生生活と多くの出会いを通して、私を支えてくださった先生方、宗教活動センターの方々、友人、両親、本当にたくさんの感謝の気持ちでいっぱいです。

自分に与えられる恵みに感謝する気持ちを忘れず、目には見えないつながりを信じて、これからの人生を歩んで生きたいと思っています。



御恵み多き二年間

安岡 円香
(国文学科2年)

短期大学での生活は、二年という短い期間でしたが、充実した日々であったと感じています。

この二年間の歩みの中で、私はたくさんの方々によって支えられてきたのだな、と実感しました。特に、惜しみなく愛情を注いでくれた両親には、感謝の想いが尽きません。

知識、経験、様々な出会いなど、多くのものを得ることが出来、私の心を大きく成長させてくれました。

このように短大生活が豊かなものであったのも、神の御恵みがあったためなのでしょう。

本学での学びの中で、そしてシオン寮での暮らしや、ハンドベル・クワイアでの活動などを通して、神は私に様々なものを与えて下さいました。それら神から頂いた御恵みをただ享受するだけでなく、これから社会に貢献するという形で、また神へと御返し出来ればと思います。



今ならはっきり わかります

奥村 隆平
(経営学部 経営学科4年)

「主を畏れることは知恵の初め。」

(箴言 1 : 7)

4年前の春、様々なサークルや部活が躍起になって新入生の勧誘を行っているなか、私は誘われるままに聖歌隊へと足を踏み入れ、教会音楽というものを知り、J. S. バッハの音楽に出逢いました。

バッハの音楽を通して私は「賛美」を知り、「知恵」を与えられました。賛美をすること

で、それまで知識として知っていたはずの御言葉さえも、まるでたった今語られたかのような新鮮さと力強さを持って、語りかけてくるのです。

今ならはっきりわかります。

本学への入学が許されたこと、聖歌隊へと導かれたこと、音楽が与えられたこと、4年間の全てが単に知識や経験を豊かにするためだけでなく、真理に触れ、知恵を得るためであったと。

そして、今ならはっきりわかります。

朝ごとに新しくなり、決して絶えることのない恵みで十分に満たされているのだから、今はただ新たな歩みに期待して待てばいいのだと。



「こどものためのイエス・キリスト物語」

「寝る前にこの絵本読んだらかわいそうで寝れなかったよ」と話していた6歳の子ども達もいよいよ卒園です。3年間の幼稚園の礼拝で、子ども達はたくさんのイエス様のお話を聴いてきましたね。この絵本は聖書に基づいてイエス様の誕生から復活まで描かれていますので、一つひとつ聴いた聖書の話が、イエス様の生涯という視点で繋ぎ合わされてゆくことでしょう。この絵本を描いたブライアン・ワイルドスミスさんは、子ども達に伝えるべきものとして聖書のお話の絵を数多く描いています。「子ども達の真つ白な心を輝く贈り物でうめたい」と。この絵本を通して神さまのご計画と大きな愛を感じることでしょう。

①
ブライアン・ワイルドスミス 絵/文
星野真理 訳 小学館



「星の王子さま」

いくつもの星を旅してきた王子さまは、7番目に、地球にやってきます。王子さまの話に出てくる色々な星の大人たちはへんな大人ばかり・・・でも、地球で出会ったキツネと仲よくなった王子は、キツネから大切な秘密を教わります。「かんじんなことは、目に見えない。」みなさんが青山学院で学んだ目に見えることはたくさんあります。でも、そればかりではなく毎日の礼拝を通してみなさんの心の中にはぐくまれた神様の愛をいつまでも大切にこれからの生活をすごしてほしいと願っています。神様との交わりも人(友だちや先生)との交わりも目には見えません。心や気持ちも目には見えません。だからこそ目に見えないものを大切にしていってほしいと思っています。卒業おめでとうございます。

②
サン＝テグジュペリ 作
内藤 濯 訳



「フェアブル植物記」

「大通りがもっとも快適というのでもなし、……人通りのはげしい道の、息のつまりそうなほこりはほかの人たちにゆずって、われわれは小道の草の緑のなかを行こう……道すがら木々におしゃべりもさせてみよう。」と、フェアブル先生は子供たちを誘う。興味や関心までも成果に結ばれそうな場所は廻り道して、この子らが「頭脳に豊かな考えを蓄え、心に気高い憧れを満たす」備えに、との29章。草むらをはけたら、「厳密な科学」がやがて詩になる不思議の森へ入ろう。植物たちの信頼篤き名通訳、フェアブル先生を道案内に。

③
J. = H. フェアブル 作
日高敏隆・林瑞枝 訳 平凡社

『昆虫記』より12年早く1867年の刊。百年余をかけて日本に来た。原題は『薪の話』。

選者：①久保小枝子(幼稚園)、②佐々木淳(初等部)、③佐藤いつ子(中等部)、
④中久木眞治(高等部)、⑤渡部徳子(女子短大)、⑥茂 牧人(大学)



キム・ヨン 著
草風館

④

「チマ・チョゴリのクリスチャン」

近代韓国が苦難の時代をいかに歩んできたかを、曾祖母から四代にわたるクリスチャン女性の視点で描いたのが本書である。著者のキム・ヨン(金纒)氏はまだ日本と韓国が日韓友好条約を結んだばかりの頃、韓国留学中の日本人神学生 澤正彦氏と結婚し来日した。以来、日本に帰化し、澤牧師亡き後も牧師として、また教育者として熱心に伝道をされている。

また本書はとりわけ「クリスチャンの女性の、女性による、女性のために」描かれた作品である。日韓問わず信仰の道を一途に歩むことがいかに大切であるか、そのために女性(ことに家庭婦人)の力がいかに大きく与っているかを、本書は端的に物語っている。



原 守久 著
東洋館出版社

⑤

「ヨーロッパ文化史紀行」

本書は、ヨーロッパの都市のたたずまい、建築、彫刻、絵画などを目のあたりにして大きな感動を覚えて書かれた文化史であり、歴史書でもあります。ギリシャとローマ、ヨーロッパ社会の成立、中世ヨーロッパの発展、ルネサンスと宗教改革、啓蒙時代(自然科学の誕生以降)、近代および現代ヨーロッパが語られています。著者は、物理学者で、日本のガラス工業をリードしてきた実業人でしたが、第一線を退かれた後もドイツに居を構え、10年の歳月をかけて本書を執筆されました。算数、理科、人文、音楽など、すでに私たちの血となり肉となっているヨーロッパ文明の本来の姿に接してみませんか。



関根清三 著
中公新書

⑥

「倫理の探索 聖書からのアプローチ」

現代社会の中で基本的に通用している人間観は、他人に危害を加えない限り、何をしてもいいという人間観である。そこからさらに今若者たちが、「なぜ人を殺してはいけないのか」「なぜ援助交際をしてはいけないのか」という恐ろしい問いを発するようになっていく。それに対して著者は、今ここに私が生かされていることの神秘への驚き、あるいは救いの神への驚畏の念があるときに、本来の人間性を取り戻せるという。倫理は、存在の神秘を説く宗教の中にあるときに正しい姿となる。この著作は、無責任な大人が作り出した社会の中で本来の人間性を見失った若者へのメッセージとなっている。

退職にあたって

伊藤 勝啓

女子短期大学宗教主任



青山学院女子短期大学に奉職したのはもうすでに18年前のことになりました。宗教主任ということで、いろいろな会議に出ること、祈りをすること、説教をすること、学生と一緒に夏のキャンプに出かけること、聖歌隊、ハンドベル、ゴスペル・グループと合宿に出かけること、時には東京以外の土地に引率で出かけること、いろいろな集会のために講師になる方々と連絡を取ること等、挙げてゆくといろいろな仕事がありました。しかし、わたしの使命は学生たちとともにあることでした。そこに喜びがありました。

1984年4月から兼任講師をしていた期間を合わせると24年間の関わりになります。わたしの人生では一番長い関係です。キリスト教活動に関係した学生はもとより、授業で出会った学生たちの数は相当になります。アルバムを開くと、その当時のことが偲べれます。中には結婚式の司式をした人たちもいます。その人たちとは今でも連絡があります。

さて、わたしがこの24年間、とりわけ考え続けてきたことが2つあります。そのひとつは女性の高等教育に関してです。女性は男性と変わらない力を持っているにもかかわらず、いろいろな意味で差別されている現実に目を留めざるを得ませんでした。それは男性自身の意識改革が十分でないことを示しています。たとえば、キリスト教信仰に基づいた教育を行おうとしている青山学院においても、女性の役職者は男性に比べて少ないのです。徐々に変わってきてはいますが、それでも十分ではありません。その

ようなわけで、礼拝の説教者や講師を考えると、できるだけ女性をおよびするようにしてきました。男性の視点とは違った情報の発信が、わたしたちの社会に欠かせないからです。特に女性の高等教育を考えると、将来リーダーシップを取りうる学生を育てたいと思ってきました。

第二に、キリスト教信仰における「自由」の問題です。これはわたし個人の問題であるだけでなく、すべての人、そしてわたしたちの社会形成にとって根本的な事柄だからです。わたしは中学生になって初めて聖書なるものに触れたのですが、マタイによる福音書から読み始めてヨハネによる福音書の8章31節以下で、特に32節の「而して真理は汝らに自由を得さすべし」のところにきたとき、頭を殴られるような衝撃を経験しました。それまで不自由とか、自由がないとは考えてもいなかったので、「真理」がわたしたちに「自由」を与えるというのはどういうことなのか思いも及ばないことでした。真理と自由というのはわたしにとって信仰や思想の問題だけでなく、どのように生きるかという実践の問題でもありました。クリスチャンとして尊敬を受けていた人々について目を配りました。わたしの師であった方々にも目を留めました。そうすると、真理と自由の切っても切れない間の中で生きている人は意外に少ないことが分かりました。権力の座に着くと人は変わるので。幾人もそのような人々を見てきました。真理からはずれ、人間の生み出した競争原理に頼り、自由からも離れていくのです。頭で真理と自由の関係を考えても、実生活の中でそれを実践しなければ意味がないのです。否、真理と自由の必然的関係を考えるものはそのように生きざるを得ないのです。その意味でヨハネによる福音書の先の言葉はわたしの人生を造ってきたと思います。

最後になりましたが、わたしは人に恵まれてきたと、つくづく思います。名前を挙げることはいたしません、そうした人々との出会いはわたしにとって宝物です。有難うございました。

アジアのクリスチャンとの 交わり

山下 亮

国際政治経済学部
国際経済学科4年



「互いにお互いをついてはなりません。古い人をその人の行いと共に脱ぎ捨て、造り手の姿に倣う新しい人を身に着け、日々新たにされて、真の知識に達するのです。そこには、もはや、ギリシア人とユダヤ人、割礼を受けた者と受けていない者、未開人、スキタイ人、奴隷、自由な身分の者の区別はありません。キリストがすべてであり、すべてのもののうちにおられるのです。」

(コロサイの信徒への手紙 3 章 9 節～ 11 節)

2008年に神様は私に東アジアの国々のクリスチャン学生と交わる機会を2回提供してくださいました。一つ目は、8月4～9日にかけて行われたキリスト者学生会(KGK)が所属している国際福音主義学生連盟(IFES)の東アジア地区大会。そして、もう一つは10月16～18日にかけて行われた、青山学院大学が所属する Association of Christian Universities and Colleges in Asia (ACUCA) という協会が主催する学生キャンプです。今回は青山学院大学が派遣して下さった、ACUCAのキャンプについ

て報告したいと思います。

ACUCAのキャンプはフィリピンの Ateneo de Manila 大学を会場に行われました。約70名の学生が計7カ国から集められていて、アジアの若者が向き合う試練や機会、また、宣教や使命への呼びかけというものがテーマとして掲げられていました。メインのプログラムは、各国のチームが準備してきているそれぞれの国におけるクリスチャンやキリスト教会の近況報告と、テーマに基づいた講演とその分かち合いです。このキャンプを通して得たものは、各国のクリスチャンが抱える課題を単なる字面だけでなく、実際の関わりを通して分かち合えたこと、またアジアにクリスチャンの友人を得られたことです。プロテスタントやカトリックというように様々なクリスチャンがそこには集められていました。同時にアジアの多様な文化がそれぞれの国のクリスチャンに影響を与えられていることを体験することによって、クリスチャンの多様性について改めて認識することができました。しかし、その多様性の中においてもイエス・キリストが救い主であると信じていることによってクリスチャンは一つなのだということを感じることができました。

今回のACUCAでの経験は今後、アジアの国々に関わっていききたいという私にとっては大変貴重なものとなりました。きっと、何かの用事でアジアの国々に行く時に、ACUCAで知り合った友人と再会し、お互いに励まし合うことができるでしょう。このような機会を与えて下さった青山学院大学に、そして何よりも神様に感謝したいと思います。



その26 — 明治初期の翻訳文化

氣賀 健生

大学名誉教授

青山学院資料センター所蔵のキリスト教貴重文献・資料紹介第26回。今回は多少趣向を変えて、日本が文明開化に目覚め、西欧の思想や文学をとり入れ始めた主として明治初期からの翻訳文化を紹介しましょう。今日では古書店でも滅多に見かけない超貴重本が数多く当センター資料庫に眠っています。これらのうち兼藤栄氏はか数人の寄贈書を除けば、その殆どが大学創立(1949)から間もない昭和26(1951)年前後に購入となっていますから、創立時の図書予算で購入したものとと思われますが、その目利きはどなただったのでしょうか。(恐らく増田金四郎氏と推察します。)

如何にも文明開化期らしく、シェークスピアは西基斯比亜または沙吉比亜、イソップは伊蘇普、ジョン・バンヤンは約翰本人、などとすべて漢字のあて字を使っているなど、今日とは異なる意識構造が見えて、その点も興味をそそられると思います。解説は最小限に抑えてこれらの珍本を列挙して行きます。



中国語訳「天路歷程」より

まず「天路歷程」。訳本5種類を所蔵しています。

○「意訳・天路歷程」宣教師 W. ジョセフィン・ホワイト訳。明治12年東京上梓。“英人約翰本人原著、姓はパンヨン名はジョン”とあります。帙入り3冊本で和綴じ。

小川義綏・中村敬字題字。他に明治19年、26年、33年に東京基督教書類会社から1冊本として再版されたものも収蔵されています。この他に中国語訳があり、耶蘇降世1869年版、蘇松上海美華書館発行、訳者宣教師 William Burns で、新鑄銅版となっています。次はシェークスピアのものを列挙します。

○沙吉比亜著戯曲「羅馬盛衰鑑」鶯林學人・天春

逸史戯訳。明治19年駿々堂出版。編集人京都府平民上田捨吉。定価1円。なお副題として“入略該撤の劇及び貌留達の劇”とあります。

○英国西基斯比亜原著、日本井上勤訳「人肉質入裁判・絵入」。東京鶴鳴堂、明治16年。

○Shakespeare's The Merchant of Venice 磯部誦一郎講述「人肉質入裁判法庭之場講義録全」国民英学会文学会 明治24年(これは“ヴェニス商人”です)

○英国西基斯比亜原著・日本井上勤訳「幽霊」神田久野木信善発行。明治21年

○英国シェクスピア氏著、春煙小史訳、文学士春の野おぼる序「仇結奇の赤縄・西洋娘節用」明治20年誠之堂。和綴200頁。価45銭。(これはロメオとジュリエットの和訳です。)

文明開化時代に洋学の先駆けとなったのは蘭学でした。洋学の祖と言われた青木昆陽の超貴重本をはじめ、オランダ語、ドイツ語、英語のたどたどしい教本が数十冊あります。幾つかをひろってみましょう。

○「和蘭文字略考」和綴じ。原本は青木昆陽天保3年の作。次のような但し書があります。「嘗て和蘭文字略考三巻ヲ著シ官へ上ル不幸ニシテ今春ノ火ニ罹テ家ニ蔵ル副煨燼トナルニヨリテ故紙ヲヨビ臆記スル所ヲ以テ集メテ三巻トナス。延享三年十一月二十一日、青木敦書識」(敦は昆陽の本名)和綴43枚で、“日蘭通交調査会図書”の印があります。

○「和蘭文典字類」和綴じ2巻。前編飯泉士讓選、後編高橋重威選。安政5年、東都書林刊行。

○「洋学指針」尾張柳河春三著、安政四年四月稟准、九月刻成。NEDERDUITSCHHEと表記されています。

○「改正増補蠻語箋」巻二、箕作阮甫著、安政四丁巳年七月。江都書林播磨屋勝五郎版。(ここに言う蠻語とは、ドイツ語・オランダ語をさして、単語および簡単な文章が並んでいます)和製本。

○柳垣先生著「日耳曼字・九ツ以呂波」地本松延堂梓。明治4辛未年、東京人形町通松島町伊

勢屋庄之助版。和製本。(ドイツ語のアルファベート)

- 「普語箋巻之二・依頼名字添字」著者不明。和綴(ドイツ語単語集)
- 「獨逸学入門」和綴。(ドイツ語の綴り方から始まって簡単な文章)明治辛未。猛春新刻。
- 「英独佛和哲学字彙」井上哲次郎・元良勇次郎・中島力造共著。丸善出版

以下、大方の読者諸氏に興味深いと思われるものを列挙します。解説は原則として省略します。

- 「失楽園・始祖夫婦純愛之巻」ミルトン原著、内村達三郎訳注。英文つき。明治41年東京建文社版。
- 「^{ガリバルズ}鷲嶽^{スエーデン}睡兒^{ロビンソン}回島記・^{スエーデン}リリプット^{スエーデン}國渡海の事」スウェーデンの氏原著。静岡県土族片山平三郎口訳、大分県平民九岐晰筆記。明治20年
- 「^{ロビンソン}絶世奇談・^{ロビンソン}魯敏孫漂流記」英国ゾーフラー著 日本井上勤訳。411頁。明治25年、定価1円
- 「^{ロビンソン}新訳魯敏孫漂流記」英国テフォー氏原著 日本鶴堂牛山良助訳 春陽堂刊
- 「^{ネムリウサ}含羞草」シエレー原詩、木村鷹太郎訳 一條成美画 明治40年東京武林堂発行 定価70銭
- 「^{イソップ}新訳伊蘇普物語」文学博士上田萬年解説 画伯梶田半吉挿画 鐘美堂発行 明治40年 1円80銭
- 「^{イソップ}通俗伊蘇普物語(絵入)」 渡辺温訳・上梓和綴6冊 明治5年
- 「^{イソップ}漢訳伊蘇普譚」阿部弘國訓點 和綴2冊 明治10年 香港英華書院原刻
- 「^{くつなおしわらんべのおしへ}鞋補董教學・上中下」絵入り和綴じ。"西国立志編巻之十(Self Help)" 佐橋富三郎綴・白水廣信画 神武紀元二千百卅三年一月出版 明治6年
- 「^{スマイルス}西国立志編・原名自助論」英國斯邁爾斯 著。中村正直訳 1867倫敦出版 明治14年七書屋版764頁。他に明治21年東京文事堂のものがあり、これには"男子而讀此編者苟不能立身興家非人矣也"月廼舎た叡子書(印)と記入があります。その他明治21年東京銀花堂版和綴11冊等があります。

- 「^{スマイルス}西洋品行論」全12冊。英國斯邁爾斯原撰・敬宇中村正直訳述並出版。明治11年 和製本 これは次のような興味ある内容から成っています。少しく抜粋してみましょう。

△品行ハ天下ノ大勢ナリ △英雄ノ事ハ慕フベキ者ニ非ズ △路傍極貧ニシテ日耳曼ノ品行ヲ造ル △婦人ハ男子ニ依頼スヘキ事 △真正ノ良妻ヲ論ス △無禮ニ類スル事ハ慎ミ戒ムベシ △人生ハ奥妙ニシテ測ルベカラザルモノアリ △塞爾萬^{セルバンテス}の事 △有名ナル囚人及囚人ノ著書

- 「^{スマイルス}西洋節用論」英國斯邁爾斯著 日本中村正直抄訳 明治19年 価40銭。"節用ハ人智開進ノ後ニ在リ 外見ハ真正ノ人品ニ非ズ 安樂ハ必シモ富ヲ要セス"のような格言が沢山並べられています。
- 「^{スエーデン}歐米立志金言」脇山義保記述 采英書屋藏梓 明治19年、和綴36枚、定価20銭。"倍根日、^{ジョンソン}戎孫日、^{スコット}斯格的日、^{ソクラテス}瓊格刺底日……"と警句が並びます。
- 「^{スマイルス}西洋童子鑑」2冊本全3巻、和製本。1872年美国ハルペル氏刊行 明治6年新刻 中村正直訳
- 「^{ハーバードスベンサー}社会平権論」袍巴士斯邊瑣著、松島剛訳。文盛堂版791頁。金2円也。次のような興味深い説明があります。"此書原名ヲソシアル・スタチックスト題シ、1864年米國ノ再版ニ係ルモノニシテ同等自由ニアラザレバ社会ノ権衝ヲ保持スル事能ハザル旨ヲ論辨スルモノナリ故ニ此義ヲ訳シテ社会平権論ト題ス。氏ハ英国^{ダービー}提美果ノ産ニシテ父母ハ尚ホ該地ニ居住ス。書中幾世紀ト記ス者ハ世代ヲ著ス名稱ニシテ一百年ヲ一世紀ト稱ス。"各章は"道義ノ原理から始まり、所有ノ権理、政治上ノ権理、国家ヲ無視スルノ権理、国家職務ノ限界"等に及んでいます。
- 「^{スマイルス}真正哲学無神論」東京府華族鳥尾小彌太著、日本国教大道社藏版、明治21年第三版、定価金30銭。

以上当センター所蔵の一部を紹介しました。この他福沢諭吉「学問のすすめ」初版本とか貴重な資料が沢山ありますが、残念乍ら紙数が盡き割愛します。

日本基督教団 安行教会

田中かおる

中等部聖書科非常勤講師

安行教会は、植木の町「安行」にあります。ある家庭集会がその母体となり、1964年に安行伝道所として設立されました。家庭集会が開始されてから約10年後の事でした。当時は、教会学校が盛んで、近所の子ども達が大勢集まり、民家における教会学校はいつも大入り満員状態だったといえます。その当時の教会学校生徒達が次々に洗礼を受け、教会に連なり、今でも教会を支える大事なメンバーとして元気に活躍していることが、この教会の大きな特徴です。

もうひとつの特徴は、1999年クリスマス礼拝から「礼拝はひとつ：乳児から成人まで一緒にの礼拝」という礼拝を献げていることです。礼拝の始まりから終わりまで、基本は、乳児から成人まで一緒に過ごします。それが、聖書を信じる神の民の本来の礼拝の有り様だった、ということを教会全体の学びで確認したからです。配慮として、子どもへのメッセージの後、大人へのメッセージの間は子ども達は担当者と一緒に別室に行って過ごしても良い、ということになっています。また、礼拝プログラムや賛美歌の歌詞なども振り仮名付の子ども用を作成し、子ども達はそれを使って礼拝に臨みます。

礼拝出席者の内、百歳の男性が最高齢で、最年少は二歳の女の子です。百歳の男性の



「主の祈り」の言葉は、とてもはつきりしていて礼拝の中でひとときよく聞こえます。みんながこの男性の



声に合わせてゆつくりと祈ります。子ども達の声も重なり、最後に皆で心を合わせて「アーメン」という時、本当に「老いも若きも一緒にの礼拝」という実感がわきます。子ども達にとって、人生の先輩方の真剣に神さまを礼拝する姿を目の当たりにすることができるのはとても幸いなことです。

礼拝の後に、幼児小学生は二階で、中高生は礼拝堂で、それぞれ今日の聖書の言葉とメッセージを振り返る時間を持ちます。幼児小学生はその後、トランプや対面式のゲームなどをして楽しみます。縦の人間関係が薄れている昨今、とてもよい交流の場になっています。クリスマスやイースターには、教会員である男子中学生の友達が5～6名出席します。小学生の時から、細く長くですが継続的につながっています。

この礼拝から信仰告白者が生まれ、現在、新たに求道中の親子も加えられました。小さな群れですが、次世代が、礼拝共同体の中で神さまに育てられていきますよう、祈りを深めています。

ぜひ、礼拝にお出掛け下さい。

集会のご案内

- ★主日礼拝
毎日曜日 AM10:00～11:45
※子供メッセージ有り
- ★聖書研究・祈祷会
毎水曜日 AM10:30 / PM7:30
どの集会にもご自由にご参加ください。

日本キリスト教団 安行教会

牧師 田中かおる

川口市安行原 2562-1
TEL&FAX: 048-296-4002

幼稚園より

卒園礼拝

3月6日(金)

3年間神さまの御言葉を聴いてきた幼稚園の礼拝室で、年長組の子ども達と保護者、保育者が共に、最後の学年礼拝を守ります。大学宗教主任・文学部准教授の伊藤悟先生をお迎えして行います。礼拝後、子ども達に聖書が贈られます。



2007年度 卒園式の様子

終業礼拝

3月12日(木)

3学年の子ども達が集まり、終業の礼拝を守ります。一年間の歩みを神さまに感謝します。この日で、年少組3歳児の子ども達は卒園生とお別れです。

卒園式

3月13日(金)

3年間、神さまが守り導いて下さったことに感謝をします。在園生を代表して、年中組4歳児の子ども達が卒園生を送ります。

(教諭 久保小枝子)

初等部より

2008年度の終わり、初等部で6年間の学びを終えて新たなステージに向かっていきます。どこにいて

も神の守りのあることをいつも心に刻み、歩んでほしいと願っています。毎日行われる礼拝の他、以下の特別なプログラムを守りました。

卒業礼拝

3月9日(月)

6年間の学びに感謝し守る礼拝。説教者は小澤淳一初等部宗教主任。

6年生を送る礼拝

3月13日(金)

卒業生から各学年に「友情の火」と呼ばれるロウソクの炎と共に聖書の御言葉が贈られ、各学年からも御言葉による応答を行う礼拝。奨励者は、6年生が1・2年生の時の担任であった小林 真先生。

青山学院フィリピン訪問プログラム

3月21日(土) ~ 27日(金)

チャイルドファンドジャパンを通して支援しているチャイルドを訪問し、フィリピンの現状、貧困とは、豊かさとはなど様々なテーマについて学びをします。初等部からは5年生6名と吉野先生、小澤宗教主任が引率します。今年度は大学生と共にプログラムを行います。

(宗教主任 小澤淳一)

中等部より

献金

生徒、教職員、保護者によって捧げられたクリスマス献金は、中等部祭での売上げと毎月の保護者聖書の会での献金とを合わせて、34箇所の団体・施設にお送りしまし

四旬節(レント)

「四旬節」は「レント」や「受難節」とも呼ばれます。イエス・キリストが復活されたイースターの前日から、6回の日曜日を除く40日前の水曜日から始まります。この間、キリスト者はイエスの御受難を覚え、イエスのお受けになった苦しみ、私たち人間の罪を贖うためであったことを感謝し、克己の生活をします。

この慣習は2世紀頃から始まったと言われていました。当時の人々は、復活日の前夜に洗礼を受けました。洗礼を受ける前に人々は、じっくりと教育を受け、断食したり祈りを捧げ、修練の日々を過ごしました。そこには洗礼に対する人々の真剣かつ謙遜な思いが表われ出ています。

復活日前の6回の日曜日を除く40日と定められたのは、日曜日がイエスの復活を祝う記念の日だからです。また、40という数字は聖書において特別な意味を持っています。モーセに導かれたイスラエルの民はエジプトを脱出しますが、その後、約束の地カナンに入るまで、民は40年間

の間、荒れ野をさ迷い続けました。さらにイエスは「公生涯」と呼ばれる伝道活動にお入りになる前、荒れ野で悪魔から誘惑を受けます。その直前に、イエスは40日間断食されました。特にこの40日という数字に、四旬節は基づいていると言われる。イエスの断食に倣い、人々も肉や卵を食べないといった食事の節制をしたり、祝宴を自粛する等、出来るだけ質素な生活を心掛けます。そのため四旬節の前には、リオのカーニバルに代表されるように、陽気な騒ぎだめも行なわれなくなります。興味深いことに、カーニバル(謝肉祭)はラテン語のカルネ・パーレ(「肉よ、さらば!」)という言葉に由来するそうです。元来は異教の慣習に由来していたものが、いつの間にかキリスト教の慣習のように取り込まれたのです。

今年は2月25日が「灰の水曜日(Ash Wednesday)」で、この日から四旬節は始まります。灰の水曜日、特にローマ・カトリック教会では、人々が額に灰の印を受けます。この灰は、前年の「棕櫚の主日(枝の主日)」で用いられた枝を焼いたものです。(高砂民宣)

た。また、月に一度ホームルームで捧げられている献金は、友情献金・CFJ献金・JOCs(キリスト教海外医療協力会)献金として用いられています。

卒業礼拝

3月13日(金)

日本キリスト教団鳥居坂教会牧師の張田眞先生をお迎えして行います。中等部での3年間を感謝と共に振り返り、新しい歩みへの心備えをする礼拝です。

(宗教主任 西田恵一郎)

高等部より

クリスマス礼拝

高等部では12月19日(金)にクリスマス礼拝を行いました。第1部の礼拝では、及川信氏(中渋谷教会牧師)が「たった一つの贈り物」と題してクリスマスメッセージを下さいました。

第2部の祝会は、生徒自身によるキリスト降誕の祝いとして、5グループによるクリスマス曲の演奏が行われました。

クリスマス献金

今回もクリスマス礼拝の中で、各クラス代表によってクリスマス献金が捧げられました。生徒、保護者(保護者聖書の集い出席者)、教職員によって捧げられた献金合計は、1,100,761円。

アジアキリスト教教育基金(ACEF)、チャイルドファンド・ジャパン、アジア学院他、20の団体と卒業生伝道者11名に贈ることが出来ました。

卒業礼拝

今年度の卒業式は3月10日(月)ですが、それに先立って、卒業礼拝を3月6日(金)午後1時15分からPS講堂で行います。説教は大学宗教主任・経営学部准教授の高砂民宣先生です。

(宗教主任 坂上三男)

女子短大より

卒業礼拝

3月18日(水)午後1時30分～
青山学院講堂

説教：伊藤勝啓 宗教主任

(女子短期大学宗教主任)

演奏：短大聖歌隊、短大ハンドベル・クワイア、
ゴスペル・グループ

送別会

3月18日(水)午後3時30分～

短大音楽室

(宣教師 シェロ マイク)

大学より

フィリピン訪問プログラム

3月17日(火)～27日(金)

初等部との合同のプログラムです。

大学からは7名の学生が参加し、フィリピンの人々に直接出会い、現地の生活を共にしてきます。

オーストラリア・クリスチャンファミリー・ホームステイプログラム

2月14日(土)～3月7日(土)

クリスチャン家庭に滞在し、現地校で英語研修、ボランティア、日曜日には礼拝出席とキリスト教や異文化の体験をします。また、地元の小中高生とも触れ合いの時があります。



大学卒業礼拝

3月25日(水)午前10時～

ガウチャー記念礼拝堂

説教：大島 力 大学宗教部長

(宗教センター事務室 平野修一)

編集後記

この3月でいよいよ青山学院を旅立つ人、上の学校へ進学する人と数多くの人々が一つの節目を迎えます。中等部2年の磐梯地方への旅行で、かつて会津藩の藩校であった日新館を訪れる機会がありました。そこでは儒教教育を中心とした「人として生きることを説いた」優れた教育を施していた様子が今でも垣間見ることが出来ます。今、日本で最も求められているのは人間関係の最も基本的な家族の絆なのかもしれません。幸いにも私たちは聖書を通して家族、友人、学校、そして社会を考えてゆくことの出来る機会を与えられています。そして各々に課せられた使命を果たせるようにと祈っております。(筒井祥之)

Wesley Hall News 第99号

発行 青山学院宗教センター 学院宗教部長 嶋田順好
東京都渋谷区渋谷4-4-25

TEL.03-3409-6537 (ダイヤルイン)

URL:<http://www.aoyamagakuin.jp/rcenter/index.html>

E-mail:agcac@jm.aoyama.ac.jp

編集 ウェスレー・ホール・ニュース編集委員会
印刷 万全社